

新庄城(沼田城, 鵜沼城) (市史跡) (新庄市堀端町) (最上公園)

新庄城（しんじょうじょう）は、山形県新庄市堀端町にあった日本の城（中世の平城）である。別名沼田城（ぬまたじょう）、鵜沼城（うぬまじょう）と呼ばれる。新庄市指定史跡。

概要

新庄城は、新庄藩 6 万石（のちに 6 万 8200 石）の本拠として寛永 2 年（1625 年）、戸沢政盛により現在の山形県新庄市堀端町に築城された平城。本丸の南側に出丸のように小さな二の丸が並列状に配置され、その外側を三の丸が囲む形である。本丸及び二の丸、三の丸の堀の水は城の北を流れる差指野川（さすのかわ）から引かれた。三の丸堀（二の堀）の反対側に当たる現在の堀端町は、家老などが住む侍屋敷があった。最上氏改易後に入封した戸沢政盛は当初真室城（鮭延城）に入城したが、手狭であることと、山城のための不便さから幕府に願い出て、当地に築城した。なお、縄張は同一時期に山形城に入封した鳥居忠政によるものである。

1636 年（寛永 13 年）に、火災によって天守が焼失したが再建されなかった。

慶応 4 年（1868 年）の戊辰戦争では戦闘の舞台となった。当初、新庄藩は奥羽越列藩同盟に参加していたが、久保田藩（秋田藩）が新政府側へ変節したのに同調し、奥羽越列同盟から離脱した。これに激怒した庄内藩は新庄藩へと攻め入り、庄内藩兵と新庄藩兵の間で攻城戦が行われたが新庄城は陥落して、その大部分が焼失した。当時の藩主、戸沢正実は久保田藩へ落ち延びた。新庄城は同年のうちに廃城となった。現在は、新庄城の建物のほとんどが失われ、本丸址に戸澤神社、護国神社、稻荷神社、天満神社（城を創建した戸沢氏の氏神、藩政時代から現存している唯一の建造物）がある。なお、新庄ふるさと歴史センター近くでは三の丸堀跡も確認できる。本丸跡、二の丸跡を含めた城跡は最上公園として市民に開放されている。最上公園は、春の「かど（ニシン）焼き大会」の会場となり、また、夏は天満神社の縁の祭りの新庄祭が開催される。

城郭

本丸には御殿（天守は落雷で焼失）、三の丸には藩の政庁が置かれた。

本丸

設備：御殿、土塁、濠、天守（落雷で焼失）、二重櫓 3 棟

二の丸

設備：土塁、濠

三の丸

城下

城下町は羽州街道に沿って商家が集まり、城下各地に職人町が造られた。羽州街道は元々「東の道」と呼ばれて神室連峰の山裾を縫っており、城域から少々離れていたが、築城を機に城下を通るように変更された。同様に庄内地方からの道路も、本合海から新田川の川沿いを通して宮野、角沢、鳥越に至るルートであった（源義経の「東下り」もこのルートである）が、新庄藩によって長坂峠（現在の八向中学校前の坂）越えの道が開削され、福田、二軒（仁間）から城下へと向かう道になった。

現在も城下町当時の町割が残る地域があり、城下町によく見られるような曲がり道や丁字路が多い。

定期市が立つ町

五日町

馬市が立つ町

馬喰町（馬口労町） 藩主が馬で城外に出る「御馬出口」もここにあった。

職人町

鍛冶町

城下で最も栄えていた商家街

北本町、南本町 新庄城の正門に当たる大手門には、北本町と南本町の間から入る構造であった。

その他

鉄砲町、御長柄町、茶屋町、横町

遊郭

万場町 料亭が数軒残っているのはこの名残である。

街道

羽州街道

Wikipedia による

